



優秀賞

愛知県遊技業協同組合

「名古屋城本丸御殿復元過程映像制作と寄贈」事業



愛知県遊技業協同組合 理事長  
森山定幸さん

## 名古屋市のシンボル・名古屋城の本丸御殿 復元工事を映像で記録する

### 空襲によって消失した本丸御殿を復元

2010年は、「名古屋開府400年」という記念の年である。1610年(慶長15年)、徳川家康によって名古屋城築城と清須からの町ぐるみの移転が決定され、以来、名古屋は中部地方の中心都市として発展を続けてきた。現在、「名古屋開府400年祭」と銘打ち、さまざまな記念事業が各所で展開されているが、それらに先立ち、2008年(平成20年度)から、名古屋城本丸御殿の復元工事が進められている。

かつて名古屋城には、金のシャチホコで有名な天守閣の南側に本丸御殿があった。京都・二条城の二の丸御殿と並ぶ武家風書院造の傑作といわれていたが、残念なことに、1945年(昭和20年)5月の空襲によって、天守閣とともに焼失してしまった。その後、天守閣は1959年(昭和34年)に再建されたが、現在、3期10年・総事業費約150億円をかけ、本丸御殿の復元工事が進められている(平成29年度完了予定)。

この復元事業では建物のみならず、障壁画の復元模写もまた注目されている。スタートしたのは1992年(平成4年)のことで、狩野貞信や狩野探幽など、狩野派の絵師たちによって描かれた床の間やふすまなどの絢爛豪華な障壁画が、当時の素材や技法を用いて忠実に復元されている。

### 文化支援の伝統を背景にした

#### 映像記録・寄贈事業

愛知県遊技業協同組合では、組合員全員の総意を得て、名古屋城本丸御殿復元事業の過程を収録したDVDを作成することを決定した。建物にしろ、絵画にしろ、ひとつたび復元されてしまえば、あたかも元からそうであったかのように、それらはそこに存在し続ける。しかし復元作業の模様や、そこに込められた思いや熱意は、関係者の記憶とともに薄れていく。それを記録に残しておけば、現在の私たちはもちろん後世の人々にも、その様子を伝え



今回の活動に対し名古屋市長から感謝状を授与される森山定幸 理事長



名古屋城本丸御殿障壁画復元模写の過程を収録



作成したDVD

ることができる。復元された建物や障壁画と、復元の様子の二つを合わせて鑑賞できれば、その建物や障壁画に対する感動はさらに深まるはずである。文化財の維持管理とは、本来、そこまで含めて考えなくてはいけないことなのだろう。

その第一弾として、平成21年度は、本丸御殿障壁画復元模写の製作過程をDVDに収録し、事業主体である名古屋市に寄贈した。この映像制作と寄贈は単年度の事業ではなく、愛遊協による継続事業に組み入れられ、複数年で合計約2,000万円の拠出が予定されている。

寄贈したDVDは名古屋城内の本丸御殿復元工事見学コーナーで上映されるなど、事業の広報活動に活用されることになっている。また、昨年9月19日から11月23日にかけて名古屋ボストン美術館で開催された「名古屋城本丸御殿障壁画復元模写展」では、開催期間中、そのDVD映像が会場で流された。狩野派の美や色彩感覚を現代によみがえさせるといふ、現在の絵師たちの情熱や

精緻な作業を丹念に追った映像を、会場に詰めかけた人々はため息とともに見つめていた。

愛遊協が実施する当事業は、名古屋城本丸御殿PRイベント実行委員会(名古屋市・財団法人名古屋城振興協会)との連携によるもので、名古屋市が行う文化事業への協力を通じて、地域の貴重な文化財の保存に貢献するのが目的だが、文化や学術面での社会貢献・地域貢献という意味では、愛遊協は長い歴史と実績を誇っている。

その象徴が、すでに25年にわたって継続実施されている「パチンコ大衆文化・福祉応援賞」の贈呈事業である。これは、愛知県内で草の根的な文化活動や福祉活動に取り組んでいる団体や個人を表彰し、活動運営資金を提供するもので、平成18年の第2回社会貢献大賞を受賞している。このような確固たるバックボーンがあるからこそ、効果的な社会貢献活動に結びつけることができるのだろう。今後も、その展開が楽しみである。



作成したDVDの映像が流された「名古屋城本丸御殿障壁画復元模写展」のチラシ